

# きしゅう会計よもやまかわら版 Vol.26

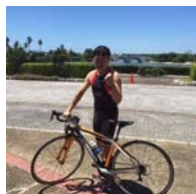
すみませーん。すっかりご無沙汰になってしまいました。いつもありがとうございます。きしゅう会計の名倉です。このかわら版の執筆に力尽きたかのように、ぱったり止まっていたが、よもやまかわら版は



季刊誌として復活です。ということで今回は2015年夏号！です。怒涛の台風ラッシュの後喰るような猛暑。なかなかタフな夏。皆様どうお過ごしですか？名倉は相変わらず元気ですが、趣味のランの方がちょっと、スランプ。5月の比叡山、7月の美ヶ原と2レース連続第一関門突破すらできずでした、、最近トレーニングさぼっていたので仕方ありません。身体は正直です。まあ、それでも1年前の春のことを思えば、自称まだまだスリムな身体。そうそう、昨日(7月26日)は50歳の誕生日だったのですが、その日に合わせてエントリーしたジャパンショート



トライアスロン赤穂大会。ミニなので、スイム1.5キロ・自転車40キロ・ラン10キロ。時間は掛かりましたがなんとか完走できました。タイムはすつと



こですが、足も腰も痛くなく、腕は上がり、肩も回り、走り回れる！色々なレースに参加できる身体に感謝です。

次のトライアスロンは、来年6月の南紀白浜の大会に出場するつもりです。今度は少しはタイムにこだわる身体を作ってチャレンジしたいと思います。がんばります！

さて、次に仕事の話です。先日、香港に行ってきました。目的は複数あったのですが、ひとつはマイナンバー管理が入るからという訳ではありませんが、外国の銀行に口座を開くこと。ここ数年外国人の口座開設



がとても難しくなってきたようで、窓口のやりとりを、通訳を横につけることができなくなっているとのこと。そこで、すつと英語力の僕は付け焼刃の猛特訓！なんとか開設できました。これで日本の財政が悪化してギリシャのように預金引出制限を掛けられても、香港の銀行口座は大丈夫となります(ちなみにHSBCに作ってきました)。勿論日本がギリシャのような状態にならないことが一番ですが、こればかりは何が起るかわからないですからね。



それから香港には日本にはない高利回りでローリスクの金融商品があるので小額ですが、そちらにも回してきました。僕と同じように、日本経済について不安に思われている方も多いようですので、今後そのようなご相談頂いた場合、自分で実体験をしておけば説得力のある説明ができますと思っの行動です。グローバルな発想が必要な時代だと思っています。海外での資産運用に御興味のあられる



方はお気軽にお聞きください。そんな口座開設や金融資産の選択でお世話になったのが、



## 香港のホープウィルグループ

3年前クライアントの社長に「アジアへの海外進出、海外資産運用等で信頼できる誰かいい人ないですか？」と尋ねたところ、「そりゃ、堀ちゃんやで！」と即答を頂いたんです。ホープウィルさんとはそこからの付き合い。グループ総帥の堀さんは元商社マンで中国在中が長かったそうです。独立したのは12年前、今では20社ほどの会社を経営。中国語、英語、日本語の3ヶ国語を流暢に操るエグゼクティブです。そんな経歴とは裏腹にとってもフレンドリーでユーモアたっぷり、「今度はイスラムの人を相手に、ドバイでたこ焼き屋やるんで



すよ」と笑顔で楽しく語る人です。ビジネス、経済、歴史、どのジャンルにも造詣が深く、相当な人脈もお持ちのようですが、誰に対しても誠実で上からでも下からでもない接し方でとても素敵なお方です。香港でのビジネス展開、中国からの資料調達、アジアへの進出など、様々なジャンルで適切なアドバイスをしてくれます。そういった海外展開に御興味のあられる方もお気軽に聞いてくださいね。きしゅう会計とし



ても業務提携しましたので、時々香港には行くことになり、一緒に行きましょう！

実は今回も、梅干のメーカーで香港での展開を考えている社長を友人から紹介されて、その会社の社長さんと一緒に渡港だったんです。ホープウィルのオフィスで、香港で日本人相手にスーパーを複数営む社長とお引きあわせをさせて頂き、香港の市場についてのアドバイスを頂いたようです。日本の梅干の文化というのはどうも外国では馴染まないみたいで



難しいのかも知れませぬ。梅干のメーカーの海外進出の場合はほとんどが梅酒だそう。ただ、今回の社長さんは梅を使ったスイーツや、外国人にも合う梅干を開発して勝負したいと仰られてました。また夜は、和僑会の例会に参加。この会は華僑のように、海外でビジネスを展開して稼ごう！という外国に住む日本人の会だそうで、アジア20カ国に拠点を置くNPOです。30名は来られてましたね。活気のある会でした。初めての参加ということで、自己紹介をさせて頂いたのですが、半分洒落で、「香港のビクトリア湾を渡る水泳大会があると聞きましたので是非出たいと思います」といったところ、ちょうど和僑会の事務局長が「私、でるんですよ！」と成り行きで意気投合！まじめに来年のエントリーを考えることになりました^^;

泳力の更なる飛躍を誓う名倉です。

## 「人は何故勉強するのか？」

実は今この壮大な疑問に自分なりの答えを出そうとしています。もちろん説得力のあるやつを。動機のひとつは優和会計人グループの小冊子で会計やビジネスとは離れて、ちょっと異質になります。「何故勉強が必要か？」のテーマで書きましょう！って言い出しっぱをやってしまったもので、このテーマで20ページ程でまとめたら経営者はもとより、従業員、その家族にまで有用なものが出来上がるはずとの目算です。



(勿論いいものを作ればですが笑)それと、よもやまでも何度か登場しているうちの高三の息子がクラブも終了して受験モードに突入しなきゃいけない時期なのに今ひとつ、一度真摯に息子と、このテーマと向き合おうと思って。何せ学校では「格差社会なんだから」と言う指導が大前提の勉強推進論のようで、否定はしませんが、本質はそこなんやらかい!?とってしまう訳です(もし、仮に格差社会でなければ勉強しなくてもいいの?)。この小冊子、出だしは決まっ

て、アインシュタイン氏が来日した時のエピソードから始まります。

来日した時、日本の学生が、こんな質問をしました。『人間は何のために生まれて来るのですか?』アインシュタインはこう答えたそうです。『人は人を幸せにするために生まれて来るのですよ』

人を幸せにする→勉強必要→幸せとは結構深くなりそうで、分かりにくい方向や、間違った方向にいかないように、読めば元気とやる気が出てくるような読物にしようと思っています。



## 喜多川さんの新刊「書齋の鍵」

「幸せ」について少し書きましたが、先日読んだ喜多川さんの「書齋の鍵」もこのテーマ。自分が「幸せ」にならない限り、自分と関わる大事な人が「幸せ」になれないというお話です。考えてみれば当り前の話です。子供が幸せにならないと親は幸せになれません。また親が幸せにならないと子供も幸せになれません。社員が幸せにならないと社長は幸せになれません。社長が幸せにならないと社員も幸せになれません。全て繋がっているのです。またこの本のもうひとつのテーマは「書齋を持とう。お風呂で汚れた体を洗うように、毎日の心の汚れを書齋で落そう!」ということです。職場でも学校でも色々な人に出会います。その中で自分の意見とは異なる人も大勢いる



し、時には酷い言葉を言われたり、自分の意見が言えない状況になったり、自分でなくても他の人がそんな目にあっているところに遭遇します。そうすると、身体ではなく心が汚れていくのです。そんな心の汚れはお風呂ではなかなか取れません。そこで書齋に入って、今まで読んできた本に囲まれましょう。今まで読んだ本の背表紙を眺めながら、その時手に入れた教訓を思い出すのです。そして今一度自分の歩んできた道。こ



れから進もうする方向を確認して、どんな人間を目指すのか?その意思の力を解放して、心についた汚れを落としましょう。ということです。(これは「書齋の鍵」を読んだ名倉の解釈です)気がつかない間に汚れる心。それを綺麗にするために書齋を持とう!いつもながら分かりやすく、考えさせられる一冊です。

(書齋は小さくてもいいんです。読んだ本が5冊でもそれが並んでいれば書齋です)読書離れが進んでもう長い日本ですが、喜多川さんは常に



「一冊の本との出会いで人生は変わる」

といい続けています。僕もこの意見には大賛成です。何せ人は情報や経験で構築されている部分が他の動物よりも遙かに大きな存在ですからね。

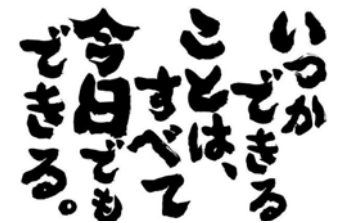


2年前にきしゅう会計で実行した「お勧め本をみんなで読もう!」という企画を今年も実施します。「書齋の鍵」はまずは名倉のお勧め本で、お盆前にスタッフ全員に配る予定。夏休みの課題図書といったところかな。前回、それなりの成果はあったんですが、残念だったのは「読みたい本」もOKとしたところ、僕以外のスタッフは過去に読んだお勧め本が出てこなくて、「読みたい本(推薦者も読んでいない)」だけになってしまったこと。いい本と出会えば、周りの人に薦めたくなくなるはずんだけどねえ、、「書齋の鍵」が第2回お勧め本プロジェクト成功の「鍵」となると思っています。



## Facebook で見つけた伝えたい話 14

人間、志を立てるのに遅すぎるということはない。負けたら終わりなのではない。やめたら終わりなのである。この道より、われを生かす道はなし。この道を歩く。いつかできることは、今日もできる。笑って暮らすも一生、泣いて暮らすも一生。人生の節目となる瞬間は、自分でそれとはわからない。自分が立っているところを深く掘れ。そこからきつと泉が湧いてくる。何もかも失われた時にも、未来はまだ残っている。人生の半分はトラブルで、あとの半分はそれを乗り越えるためにある。退屈すれば長く、充実すれば短い。昨日から学び今日を生き、明日へ繋いでいこう。幸福になりたいのだったら、人を喜ばすこと。寝床につく時、翌朝起きることを楽しみにしている人は幸福である。



<名倉コメント>

勉強は人生半分のトラブルを楽しく乗り越えるためにするものなのでしょう。頭も体も心も遅くならないと楽しい人生になりませんもんね。